

子どもたちが地域に出て調査し、マップにまとめ、発表するという連のマップ作りによって、危険を回避する力が身に付く。それが、今回紹介する「地域安全マップ」です。今年度、幌北小学校とあいの里東小学校、北九条小学校の子どもたちが、地域の防犯サポーターと共に取り組みました。さあ、皆さんの地域でも、地域安全マップ作りに挑戦してみませんか？

実感！ 地域安全マップのチカラ

ステップ2 フィールドワーク



次に実際に街を歩き、調査を開始します。危険な場所や安全な場所を見つけたら、その位置を地図に書き込みます。その理由をメモに記録したり、場所の特徴がわかるように写真を撮ったりすることも忘れずに。また、危険な場所がないかなど、地域の人から話を聞いて情報を集めることも大切です。

子どもたちは、防犯サポーターから「ここは安全？危険？」と問い掛けられたり、住民から危険な場所などを教えてもらったりし、自分たちで考えながら行動しました。

ステップ1 事前学習



まず、犯罪が起こりやすい危険な場所とはどこかや、フィールドワークでの役割などを学び、今回の活動の目的をしっかりと理解します。危険な場所のポイントは、犯罪者が怪しまれずに近づくことができ逃げやすい「入りやすい場所」と、犯罪者が隠れていても見つけにくい「見えにくい場所」です。

子どもたちだけではなく、防犯サポーターも一緒に参加。実際の写真で比較した「危険な場所」と「安全な場所」を見て、それぞれの特徴を学びました。

取り組みの広がり期待！



拓北・あいの里連合町内会
やまだ たろう
山田 太郎 会長

今回、防犯サポーターとして犯罪が起こりやすい場所はどこかという視点で街を歩くことによって、見過ごしていた危険な場所に気付くことができるなど、とても有意義でした。今後、ほかの地域にも広がってほしいですし、私たちも今回の防犯サポーターとしての経験を生かして、協力していきたいと考えています。



幌北小学校
なかい ひとし
中居 均 教頭

地域と共に来年度以降も継続！

今回だけで終わらせるのではなく、四年生の授業の中で毎年取り組んでいきたいと考えています。これからも学校と地域、行政が協力して地域安全マップの取り組みを継続していくことを通して、地域の防犯意識の高まりや、子どもたち自身が犯罪から身を守る力を身に付けることにつなげていきたいですね。